

# 包括的地域再生の ガバナンス構築に向けた領域融合的研究

地域政策研究センター 菊地 直樹

## 研究の背景

多くの地域社会において少子高齢化、後継者不足、環境の悪化など様々な課題が顕在化しているなか、国連の持続可能な開発目標(SDGs)が示しているように、自然や環境の問題と健康・福祉、ジェンダー、社会的公正といった社会的な問題を包括するアプローチによって、持続可能な地域社会を実現することが、グローバルな課題となっている。本研究では、この課題に対して、研究者のみならず住民、行政、NPOなど多様な社会セクターにまたがる知識と技術、経験等を融合させ、包括的地域再生ガバナンスのあり方を明らかにすることを目的とする。

### ①活動プロセスの社会的評価手法開発

- ・視点: 研究者、行政、市民といった多様な主体の協働を可能とするコミュニケーションの促進
- ・活動プロセスの可視化による自己評価の促進
- ・全国の自然再生協議会、ジオパーク等でワークショップ



#### 効果

- ①現状についての意識・捉え方の可視化
- ②相互理解に向けた対話の促進
- ③概念や価値の考察による課題の掘り下げ
- ④自己の発見と他者への伝えかた
- ⑤ビジョニングへのきっかけ創出

### ③グリーンインフラを軸にした地域再生

- ・視点: 自然の多機能性の評価と活用による地域再生
- ・グリーンインフラ: 自然に備わっている多面的な機能の多様な活用方法を生み出すことにより、多元的な価値を創出し、持続可能な社会を目指す考え方
- ・2018年8月に国際シンポジウム「都市景観をグリーンインフラとして考える: 金沢市における活用と協働」を開催



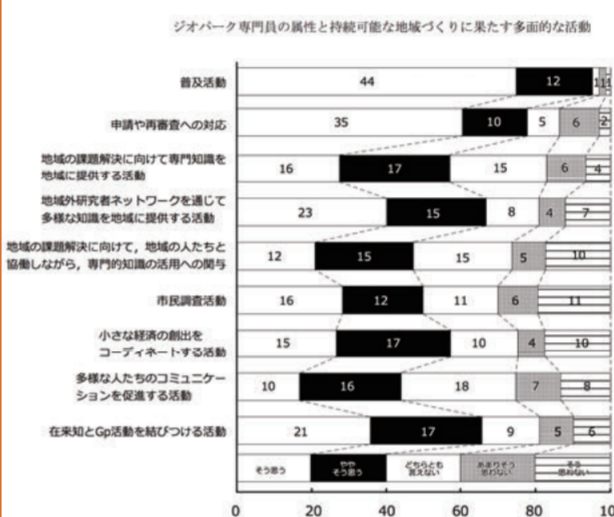
- ・都市の中の空き地・空き家の新たなコモズ化
- ・都市景観としての用水の多面的機能と農村-都市関係の再構築
- ・研究者、行政、市民といった多様な主体による「北陸グリーンインフラ研究会」の発足

### 主な研究成果

- ・菊地直樹(2018)「コウノトリの野生復帰と市民調査: 順応的プロセスの視点から」『水資源・環境研究』31(1)
- ・佐藤哲・菊地直樹編(2018)『地域環境学: トランスディシプリナリー・サイエンスへの挑戦』東京大学出版会
- ・菊地直樹・大谷竜・渡辺真人・柴田伊廣・齊藤清一(2017)「ジオパーク専門員の属性と持続可能な地域づくりに果たす多面的活動」『ジオパークと地域資源』3
- ・菊地直樹(2017)『「ほっとけない」からの自然再生学: コウノトリ野生復帰の現場』京都大学学術出版会
- ・菊地直樹・豊田光世・敷田麻実・清水万由子(2017)「自然再生の活動プロセスを社会的に評価する」宮内泰介編『どうしたら環境保全はうまくいくのか: 順応的ガバナンスの進め方』新泉社

### ②問題解決志向の知識生産方法の開発

- ・視点: 課題解決の意思決定の基盤となる知識生産
- ・レジデント型研究者への注目: 地域社会に定住する研究者であると同時に、地域社会の一員でもあるという立場から、地域の実情にあった問題解決型の知識生産を行う研究者
- ・レジデント型研究者としての「ジオパーク専門員」へのアンケート(36地域、59名の回答)



#### 結果

- ①若手研究者が多く雇用形態が不安定
- ②専門員の多様性は高い
- ③活動内容は「普及活動」と「申請・再申請」というジオパークに特有のものが主
- ④専門員に必要な能力は、科学的知識と行政的能力等が融合したもの

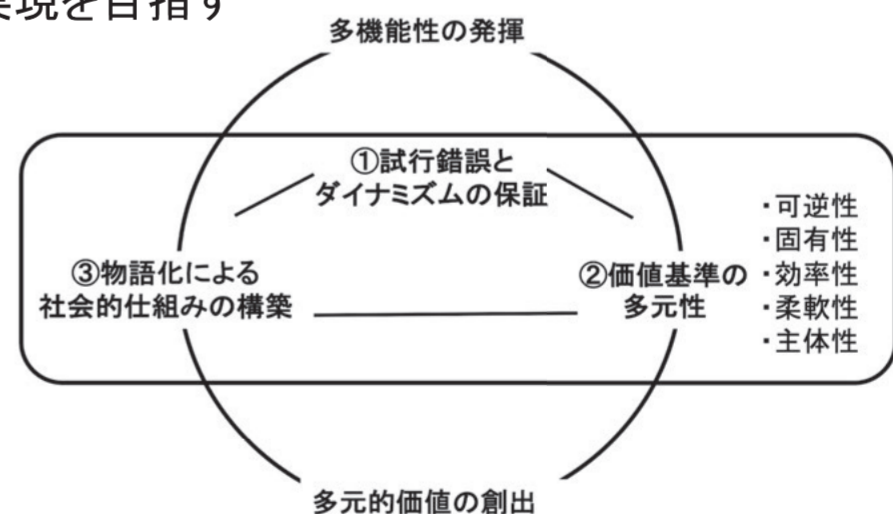
領域融合的な新たな知識生産方法(例えばジオパーク学)の創造という課題の発見

### ④包括的地域再生のガバナンス要件

- ・視点: 科学と社会の不確実性のなかで価値や制度を柔軟に変化させながら、持続可能な地域再生に向けて試行錯誤していく協働の仕組みの構築

#### 順応的ガバナンス要件

- ・問題解決の進め方としての試行錯誤とダイナミズムの保証
- ・価値基準の多元性
- ・問題解決の方法として「物語化」による社会的仕組み(認証制度や社会運動など)の構築
- ・これらを要件として順応的にプロセスを動かし、持続可能な社会の実現を目指す



多様な研究領域と社会セクターとの領域融合的研究